

【エクアドル内政・外交：2022年11月】

1 内政

(1) 治安対策に関する動き(往電第947号及び第947号)

ラッソ大統領は、1日付大統領令第588号及び4日付大統領令第599号にて、グアヤス、エスメラルダス及びサント・ドミンゴ・デ・ロス・ツァチラスの3県における治安の悪化に伴う非常事態宣言(対象期間：45日間)を発令した。本宣言には、エクアドル軍による国家警察の治安活動への参加及び一部例外を除く、23時から翌5時の夜間外出禁止が含まれている。

(2) 国勢調査

28日、国立統計・国勢調査研究所(INEC)より、新型コロナの影響で延期となっていた、「人口・住宅統計調査」が2022年の第4四半期に実施される旨発表があった。本調査の最終結果は2023年4月までにまとめられる予定である。

(3) 「女性・人権省」の創設に向けた一歩

29日、ラッソ大統領は、ジェンダーに基づく暴力防止のための政策、戦略及び行動規範の策定を担当する「女性・人権省」の創設に向けた法令に署名した。同大統領は、同日、自身のツイッターで、今後も、同テーマにおける多様な団体と連携し、女性の労働条件改善や及びジェンダー間格差の是正に取り組んでいく旨表明した。

(4) エル・インカ刑務所長の殺害

30日、キト北部に位置するエル・インカ警務所のサンティアゴ・ロサ所長が、シモン・ボリバル通りで銃で撃たれ、車内で死亡しているのが確認された。初動捜査班によると、同所長は出勤途中に襲われた可能性が高く、より詳しい死因及び犯人捜索のために、警察による捜査・情報部門が配備されたということである。本件は、現在エクアドル国内で大きな問題となっている、刑務所内の治安悪化を象徴する事件であり、これまで、国内の地方都市で主な暴動が確認されていた状況から一変し、首都のキトにまで暴力の波が及んでいることを暗示している。

2 外交

(1) 第15回 China-LAC ビジネスサミットの開催

外務・移民省及び生産貿易投資漁業省は、中国・ラテンアメリカ・カリブ共同体(China-LAC：中国とCELACの間で結ばれた国際貿易促進のために創設された地域間フォーラム)の次回ビジネスサミットの開催要領について情報を公開した。バジャス外務副大臣は、今回で15回目を迎える本サミットが、12月14日及び15日にグアヤキルで開催されることを発表し、招集した各国の大使らに、ビジネスチャンス及び新規投資について紹介されるこの会議への積極的な参加を呼びかけた。

(2) ニーランド米國務次官の訪問(往電第967号)

16日、ビクトリア・ニーランド米國務次官がエクアドルを訪問し、ラッソ大統領及びオルギン外相と会談した。同國務次官の当国滞在中には、第3回二国間政策拡大協議をエクアドル外務省で開催したほか、航空輸送に関する協定の署名、安全保障及び組織犯罪との闘いにおける協力及び移住政策等について意見交換を行った。

(3) ラッソ大統領の墨訪問(往電第1000号)

24～26日、ラッソ大統領は墨を訪問し、墨の独立200周年記念行事への出席、及び、交渉が続く貿易協定に関する協議を行った。最終的な合意には至らなかったが、両国は貿易協定締結に向けた努力を進めていくことで合意し、それぞれの政府交渉団に対し、懸案となっているバナナ及びエビについて1週間以内に双方にとって有益な提案を行うよう指示した。

(4) オルギン大臣の蘭訪問

28日、オルギン大臣は、エクアドル、カナダ、オランダが主導した「腐敗対策ハイレベル・ラウンドテーブル」に参加するため、オランダを訪問し、汚職及び国際犯罪との闘いに対する国際協力及び規制強化のための閣僚宣言を3か国共同で発表した。同大臣のスピーチでは、189か国が署名済みの国連腐敗防止条約(UNCAC)等、既存条約の効果的な実施、国際協力の強化、情報交換のための相互運用性及びアクセス性の向上等を公約として述べた。

(5) エクアドル外交(プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書の策定に向けた政府間交渉委員会(INC))(往電第1023号)

28日、ウルグアイのプンタ・デル・エステで開催されたプラスチック汚染防止に関する政府間交渉委員会(INC)において、同委員会議長職に関する協議が行われた。ラテンアメリカ・カリブグループ(GRULAC)が提案した、INCプロセスの第3回交渉プロセスの議長職をペルーとし、その後のプロセスの議長職をエクアドルが担うという案が、最終的にすべてのINCメンバー国から承認された。ルイス・バジャス外務副大臣が2024年開催予定の第4回及び第5回INC議長に就任する見通しである。

(了)